

講演「誰も言わない経済活性化への方策」

評論家 西部 通^{すすむ} 氏 (03-1)

開口一番、「私は関八州、所払いを食らっている身」と言う西部さん、9.11 テロの際、「本当に悪いのは米国だ！」と言ってしまったため、未だにマスコミから忌避されているそうです。が、大晦日の朝まで生テレビで何人かが「西部さんの言う通りになってきた」と発言、その視点の確かさが再評価される日も近いのでは？ “型破り経済学者”のユニークな興味津々の講演です。

- * 言われている構造改革の本質は何か。日本の伝統的な構造を取っ払い、米国的な構造を、政治や経済の中に埋め込もうとしていることではないか。抑もバブルの発生は 85 年のプラザ合意に起因する。米国から内需拡大要求を突きつけられたからだ。バラ撒かれた貨幣は、市場に買うものがなかったので、不動産に行ってしまったのだ。
- * いま、銀行を悪党呼ばわりしているが、私に言わせればその責任は政府から国民まで、まさに一蓮托生だ。まず米国の要求に膝を屈したこと、そして最大の失敗は住専への公的資金 0.6 兆円の投入だ。如何にも少なすぎる。そこで私はテレビで 50 兆円出して不良債権を処理せよと発言したが、荒唐無稽だと冷笑された。国民も浮かれすぎた。
- * 90 年代からの「失われた 10 年」、これは米国の、グローバリズム、規制緩和、市場活力に日本は翻弄されたからだと思う。はソ連なきあと最強のパワーを持った米国が、その基準を日本に押し付けようとするものに他ならない。米国を有難がるのは日本人ぐらいなもの。欧州人の米国観は「クレイジー・エレファント（狂象）！」。
- * も、よほどどうかしている。「横軸に市場、縦軸に組織」が経済活動というもの。例えば「談合」。米国人が非難するのはおかしい。「不正」はいけませんが、「話し合う」のは良いことではないか。「組織化能力」は日本人の貴重な歴史的財産、それをドブに捨てるといふ。その象徴的スローガンが私に言わせれば「規制緩和」だと思ふ。
- * の市場活力という概念も問題だ。本来、経済学にはこの言葉は存在せず、「市場の誘因（インセンティブ）」が本当なのだ。投資活力には低金利、消費活力には減税などだ。が、世の中は飽和状態、「誘因」の材料がない。それなのに小泉さんは言う「官を排し民を重視して、市場活力をつけるべし」。これも米国的グローバリズムの一環だ。
- * 日経新聞がよく書いた「創造的破壊（破壊を通じて創造が生まれる）」もおかしい。シュンペーターは「皆が飛びつくような創造的な活動があれば、それが推し進められるにつれ、古いものが自ずと壊れていく」と言っただけ。小泉改革のなかで皆が飛びつくような創造的、意欲的な活動が生まれたか？ 「破壊」だけだったのではないか。
- * 竹中プランが日本経済の息の根を止めるかも知れないという時に、「産業再生機構」が出てきた。中身をみてがっかりした。「意欲と見込みのある企業に助成しましょう」と言う。このデフレ不況、意欲と見込みが出てこないことが問題ではないのか。この本質を正面から問題にしなればいけないのに、避けて通ろうとする。詐欺師以上だ。
- * 「IT 革命で 500 万人の雇用を創出する」と豪語したのも竹中さんだ。それが LTCM 危機で脆くも崩れた。利子率 100%、米国が支援すると言ったから超安全、ノーベル賞学者が社長、その情報を機械がインプットしたから、ロシア国債は飛ぶように売れ 270 倍まで膨らんだ。エンロン、ワールド・コムに続くわけだが、これは八百長だ。
- * 未来を予測するには確率分布が重要。ABC のシナリオ、それぞれ何かを計算するわけだ。が、未来の危機については IT ではなく、人間組織でしか対応できないと思う。この「人間組織づくり」、実は日本的経営の歴史的財産なのだ。世界中が危機に満ちる時代、この点を再強化すべきではないか。市場、競争の礼賛ではダメなのだ。
- * 小泉さんの代わりがないと言われる。とんでもない。1 億人いると私は思う。高支持率、これは女性だ。デフレはずばらしいと思っている。やがてくる地獄に気付いていない。不良債権も徳政令で救うしかない。100 兆円放り出して…。国の借金が溜まれば子孫は困ると言うが、子孫が感謝する赤字国債なら出しても良いではないか。